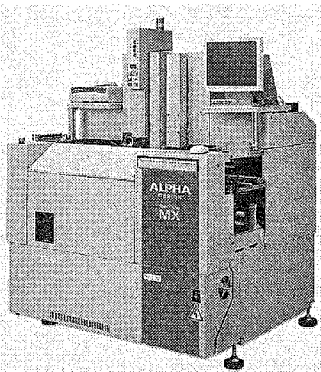


特殊部品実装装置に進出

アルファードesign

「MX」は自動車のモーター用基板などで需要が好調



産業機械メーカーのアルファードesign(長野県東御市、森沢昌良社長)は六月、シチズン時計グループのシチズンミヨタ(同御代田町)から特殊部品の実装装置事業を取得する。コンデンサーなどに端子がついた部品を基板に組み込む装置で、モーター駆動用などの基板メーカーの需要を見込む。六月中に二機種を投入、二年後に年間二十億円の売り上げ規模を目指す。

シチズン系から事業取得

車向け需要見込む

新装置はコンデンサーやコネクターなどに端子が付く「異形部品」とよばれる電子部品をプリント基板に組み込む。この部品は電気容量が大きく

「大量の電力が必要な電源に使う基板に適している」(森沢社長)。ハイブリッドカーなど動力用のモーターを使う自動車が増えていることから、異形部品基板の市場が拡大すると判断。六月一日付で事業を取得する。合わせてミヨタから営業担当者二人と技術担当者二人を出国形式で受け入れる。東御市の本社工場を組み立て、年六十台を生産する。自社ブランドで展開するが、製品名は業界内で浸透している「ボードペッカー」を引き継ぐ。

まず既存品の「MX」と「MAE2」を六月中旬に発売する。価格は一

万台千五百万円程度の予定。今後はシチズンが培った異形部品の実装技術に、アルファードesignが得意とする画像処理技術を組み合わせた新製品を開発、十月をメドに投入する。

初期年度の売上高は十億円を目指す。年内に中国やタイなど日系メーカーを前に事業をスリム化し

サンコー、経常利益99%増

前期単独カーナビ向け好調

サンコーが十二日発表した二〇〇八年三月期決算(単独)は、経常利益は前の期比九九%増の六億一千四百万円だった。生産効率の向上に努めたほか、七千九百万円の有価証券売却益を計上したことが大幅増益の要因。最終利益は二億九千八百万円増の三億二千百万円

向きの輸出も始め、二年後の生産台数は年間百二十台に増やし、売上高を倍増させる計画だ。シチズングループは七月一日付で、ともに水晶振動子を主力とするミヨタとシチズンファイインタック(御代田町)の統合を予定している。「統合

アルファードesignはコネクタ圧入装置やチップ搭載器も手がける。〇七年十二月期の売上高は約二十九億円。

造が海外に移ったため、一〇%減の三十六億三千九百万円となった。

タカチホ前期
経常利益19%減
仕入れ価格が上昇
土産物卸のタカチホは十二日、二〇〇八年三月期の単独経常利益が前期比一九%減の一億三千

術を組み合わせた新製品を開発、十月をメドに投入する。

後の生産台数は年間百二十台に増やし、売上高を倍増させる計画だ。シチズングループは七月一日付で、ともに水晶振動子を主力とするミヨタとシチズンファイインタック(御代田町)の統合を予定している。「統合

業を手放し、譲渡することにした。

て本業の水晶振動子に注力する」(シチズンホールディングス広報室)ため、ミヨタの実装装置事業を手放し、譲渡することにした。